

柏葉脳神経外科病院広報誌／季刊

かしわば

Vol. 30

2011.4

Kashiwaba Neurosurgical Hospital

開院40周年を迎えて

安全で安心いただける医療を

地域の皆様にお届けできる

世界トップレベルの病院を目指します

柏葉脳神経外科病院 理事長／院長 金子 貞男

部門レポート／B館2階病棟

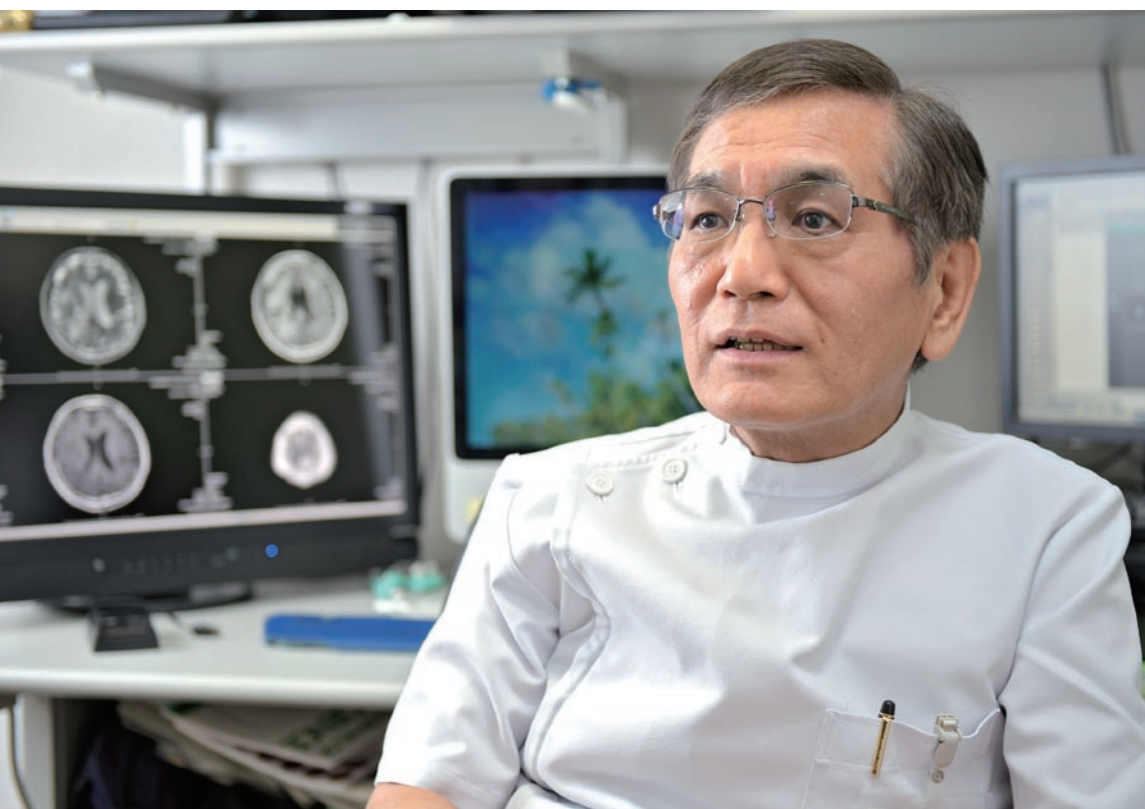
写真：血管造影装置 INFx - 8000V

特定医療法人
柏葉脳神経外科病院

開院40周年を迎えて

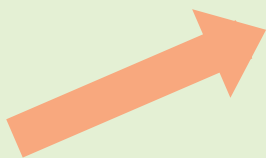
柏葉脳神経外科病院は、柏葉武名誉理事長により1971年4月19日に、わずか19床で開院いたしました。以来40年、地域の皆様の支援を得ながら、「脳の総合病院」として高度専門医療の充実を図ってまいりました。現在は144床の地域中核病院として、24時間365日救急医療を提供できる体制を整え、全職員が「安全で安心いただける医療を地域の皆様にお届けできる世界トップレベルの病院」を目指しています。

——— 柏葉脳神経外科病院 理事長・院長 金子 貞男

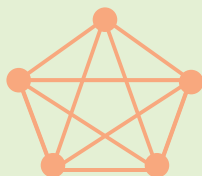


中・長期ビジョン

医療の質の
さらなる向上



地域医療機関との
連携強化



働きがいのある
病院づくり



世界トップレベルの病院を目指します

安全で安心いただける医療を地域の皆様にお届けできる

脳と神経の疾患を最先端医療で くもっと良い方法を探る

当院で治療を行う患者さんの約8割が、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など、脳血管障害の方です。

脳梗塞の治療として、発症後3時間以内の有効な「tPA静注療法」の実績を重ねています。昨年から秋からは、発症後8時間まで治療可能な「メルシトリパー」による血栓回収療法も取り入れられました。血管内に挿入した器具で血管内の血栓を回収するため、高度な技術が必要ですが、当院では専門医による治療体制を整えています。

また、脊髄疾患、脳腫瘍、頭部外傷、顔面けいれん、三叉神経痛など、脳と神経における幅広い疾患の治療をそれぞれの専門医が行っています。

シームレスで医療を提供する 救急体制とリハビリテーション

専門医が24時間365日常駐し、救急患者を受け入れるだけでなく、年中無休のシームレスリハビリテーションを提供する体制も整いました。脳血管障害などの患者さんに対し、発症直後から主治医の監視下で早期リハビリテーションを開始。患者さんの状態に応じたリハビリテーションが退院まで継続します。

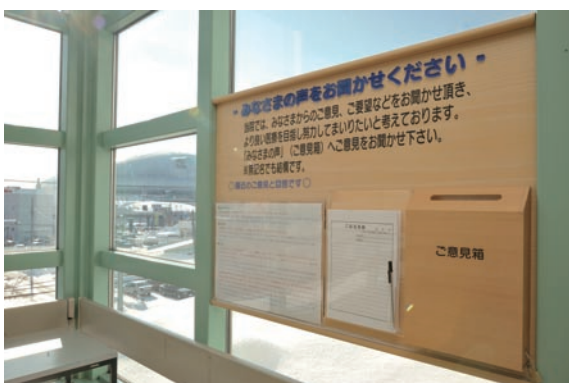
また、摂食・嚥下障害は、専門医と管理栄養士が、絶望感や喪失感に対応するメンタルケアは臨床心理士や音楽療法士が対応するなど、専門治療を担う各セクションが常に連携しながら患者さんの早期離床と機能回復をサポートしています。



チーム医療の要となる多職種によるカンファレンス



早期に始める急性期リハビリテーション



患者さんからの声を集める「ご意見箱」

「医療の質」「患者さんの満足度」の 向上に全力を尽くします

地域住民と患者さんと 職員のために

私たちは、地域住民の家庭医である診療所の医師や回復期・慢性期の各機能を担っている医療機関・福祉施設と密接に円滑に連携するために、共に学び共に成長する関係づくりに取り組んでいます。

また、地域住民が安心して暮らせるように、当院の若い職員がこの地域で結婚し、子どもを育て充実した人生を過ごせるように、誰もが幸せになる医療体制を構築したいと考えています。

私たちは、「医療の質」「患者さんの満足度」の向上にこれからも全力を尽くします。

柏葉脳神経外科病院のあゆみ

- 1971年 柏葉脳神経外科医院開院(19床)
柏葉武、院長に就任
- 1975年 第2期工事竣工(60床)
柏葉脳神経外科病院となる
- 1982年 第3期工事竣工(161床)
- 1989年 第4期工事竣工(161床)
- 2003年 金子貞男、院長に就任
- 2004年 特定医療法人認可
- 2005年 第5期工事竣工(144床)
- 2007年 金子貞男、理事長を兼任

病院の理念

私たちは、安全で安心いただける医療のサービスに徹し、患者さんの幸せを守ります。

病院の基本方針

- 患者さんにとって、思いやりのある最善の医療に全力をつくします
- 医師とスタッフによる説明と、患者さんの理解と選択に基づく医療を実践します
- 患者さんの意志とプライバシーを尊重します
- 医療従事者として、常に、豊かな人間性と技術の向上をめざします
- 救命・救急医療から心と体のリハビリテーションまで、脳の総合病院をめざします
- 地域医療機関との強力な連携をはかり、よりダイナミックな医療のサービスを提供します

患者さんの権利

- 患者さんは、平等で、安全な医療を受ける権利があります
- 自分の診療にかかわる人々の氏名と役割を知る権利があります
- 自分の病気・治療・予後について知る権利があります
- 治療について承諾・拒否する権利があります
- 自分の診療について、他医師の意見（セカンドオピニオン）を得る権利があります
- 自分のプライバシーを守る権利があります
- 公的援助、地域サービスに関する情報を知る権利があります
- 病院職員に対して、意見・苦情を伝える権利があります

部門レポート

B館2階病棟

科長…安達里和
看護師…15人
助手…9人
クラーク…1人
リハビリテーションスタッフ…16人

寝たきり防止と在宅復帰を目指す回復期病棟

多岐にわたるリハビリテーションを実施

脳血管障害や頭頸部の外傷などで急性期の医療が終了した後、患者さん一人ひとりの退院後の暮らし方をイメージしながら、個別的・具体的・集中的にリハビリテーションを行っている44床の病棟です。

専従のリハビリテーションスタッフを配置し、理学療法士5名、作業療法士7名、言語聴覚士4名が、



安達科長



貼り絵でカレンダーづくり

患者さんの能力を最大限に生かすサポートを

毎朝、医師と看護師とリハビリテーションスタッフが打ち合わせを行い、患

また、離床を促すため、集団音楽療法や貼り絵・カレンダー作りなどをデイルームで行っています。笑顔があふれる楽しい時間は、患者さんと職員のコミュニケーションを深めています。

365日体制で患者さんのリハビリテーションを継続しています。リハビリテーションは、損なわれた機能の回復訓練だけでなく、ADL室での調理や洗濯の訓練、廊下での歩行訓練、買い物や通勤を想定した外出訓練など多岐にわたります。また、トイレ、入浴着替え、食事など、日常生活能力を回復させて、患者さんの意欲や自立を支えます。

患者さんの状況を確認していますが、週3日行われるリハビリテーションカンファレンスでは、栄養士や医療ソーシャルワーカー、必要に応じて患者さんやご家族を交え、自宅での介助方法や住宅改修などの具体的なアドバイスも行います。患者さんの能力を最大限に生かしながら、退院後の生活がより快適に安楽になる方法を見出します。



日差しもすっかり暖かくなり、道端には春を告げる菘の臺が顔を出してきました。4月より、当院では27名の新入職員を向かえ、春の日差しに負けず劣らずの活気に満ちた明るい笑顔に、私達も入職当時の自分達を重ね、つつい顔をほころばせています。春を迎えたとはいえ、まだまだ朝晩は寒暖の差があります。体調管理には十分ご留意ください。
(小川)